

主体的な学び手を

よりよい自分でありたいと願うこと――。

よりよい社会を創ろうと自ら行動すること――。

一人一人の生徒の主体性を引き出すためには、どうすればよいのか。

光村図書は、生徒が道徳科では何を学ぶのか、

どうやって学ぶのかを自覚し、学びと学びを結び付けながら、
学んだことを自分の生き方に生かしていくという

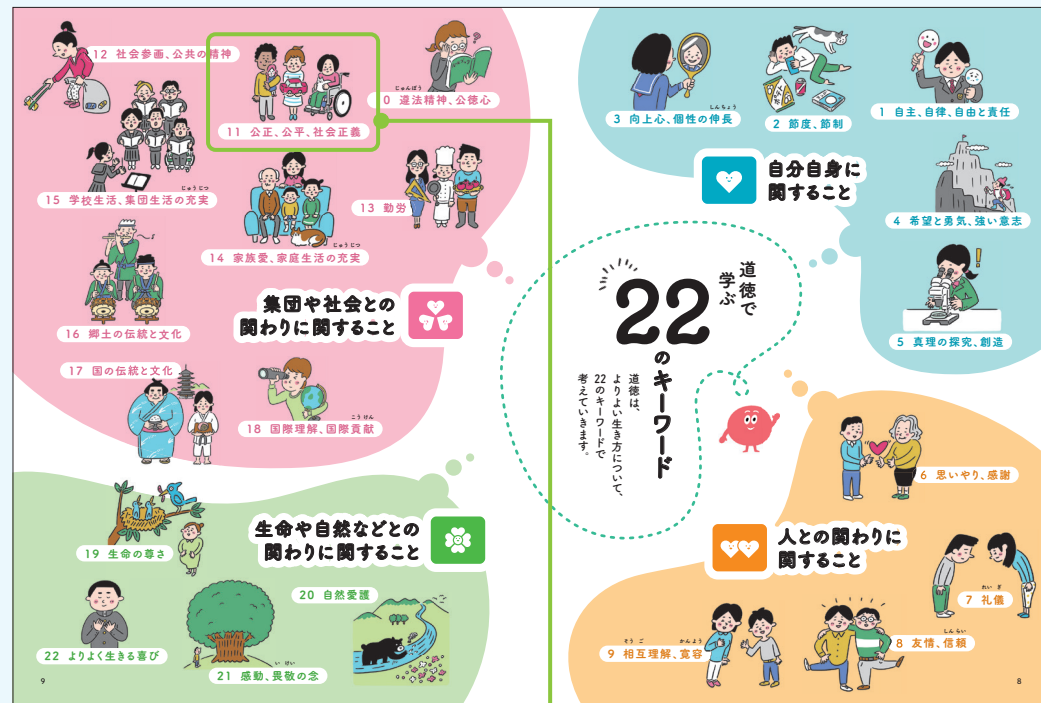
基本的な学びの姿勢を育める教科書を目指しました。



何を学ぶのか、 どうやって学ぶのか

……
道徳科では何を学ぶのか、どのように学んでいくのか。
生徒が主体的に学びに向き合えるよう、
道徳を学ぶ姿勢をつくることのできる第一教材を目指しました。

道徳を学ぶときに大切な三つのポイントを示し、生徒が、
どのように道徳を学んでいけばよいのかを示しました。
三つのポイントは、1年から3年へと、少しずつステップアップしていきます。
生徒が主体的に道徳を学ぶ姿勢を整えます。



2年 「1 道徳の学習を始めよう」p.8-9

2年 「8 明日、みんなで着よう」p.39



教材の冒頭に、「道徳で学ぶ22のキーワード」の中から、その教材で学ぶキーワードを示しました。本時で考えていく道徳的価値を自覚し、その他のキーワードと関連づけたり、比べたりすることができます。



2年 「1 道徳の学習を始めよう」p.6-7

各学年の第1教材「1 道徳の学習を始めよう」では、
まず最初の見開きページで、道徳科は、よりよい生き方について、
「話し合って」「読んで」「演じて」「書いて」
考えていくのだということを、はっきりと示しました。

QRコードからは、道徳科の学習とは
どのようなものか、確認するための
動画を視聴することができます。
キャラクターたちの言葉から、
道徳の学習に対する意欲を高めます。



巻末の折込にある「一年間の学習の始めに」に、これまでの学びの振り返りと、
これから伸ばしていきたいことを書き込むことができます。(→本資料p.24-25 参照)

見通しと振り返り

一年間で目ざす姿を思い描き、見通しをもつからこそ、振り返りができる。学びの中心を自分で平面する力を育めます。



1年 「付録 橋の上のおおかみ」p.172



2年 「付録 泣いた赤おに」 p.174

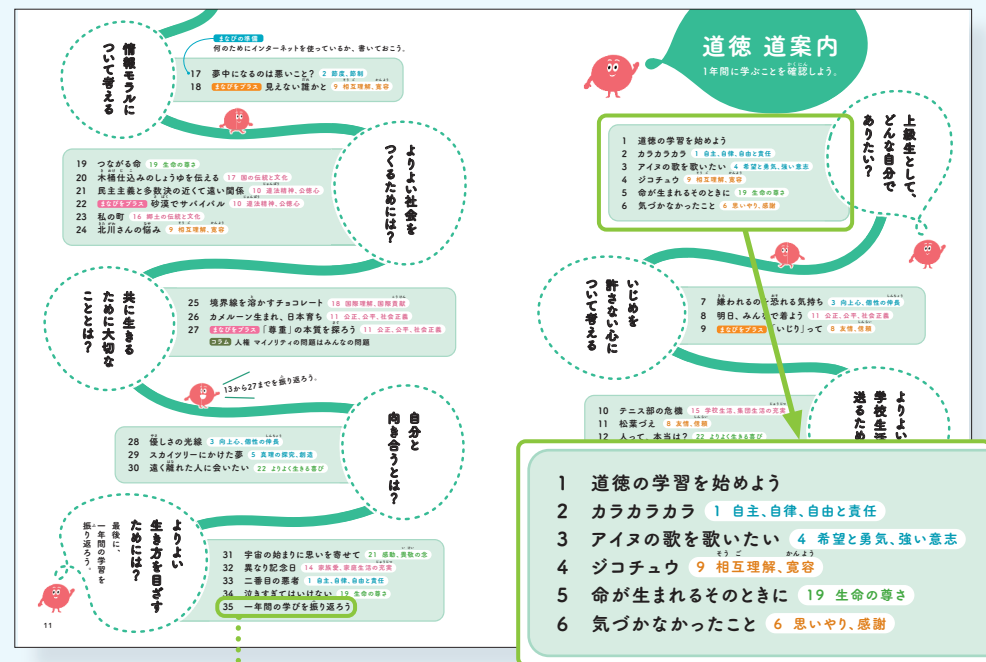
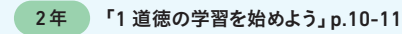


3年 「付録 手品師」p.174

チャレンジ

小学校の道徳で学ぶ定番教材を、
付録に掲載しています。

小学校で学んだ教材を中学校で
学び直すことで、自分の考えの成長を
自覚し、答えが一つではない道徳の学びを
実感することができます。



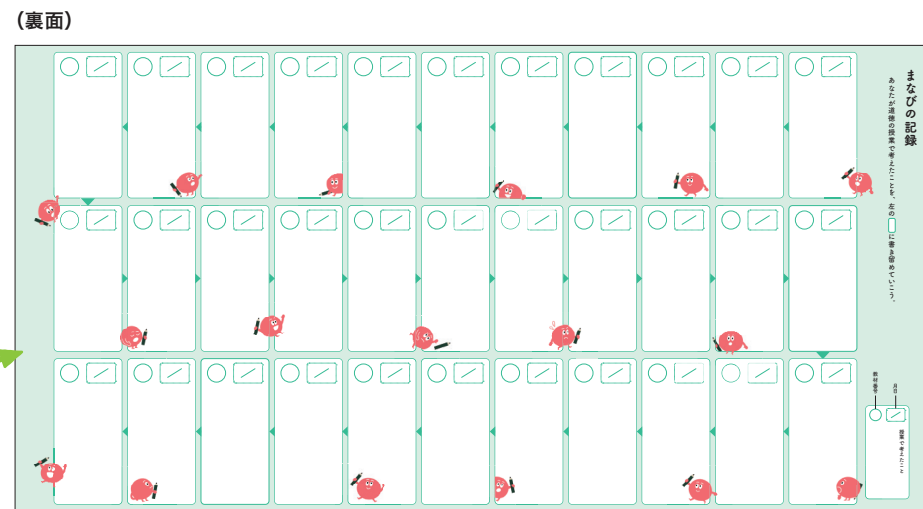
「1 道徳の学習を始めよう」の最後の見開きページ

「道徳 道案内」では、1年間の学びを見通すことができます。

1年間の学びは、生徒の成長に寄り添うように設定したテーマをもつユニットで構成しています。

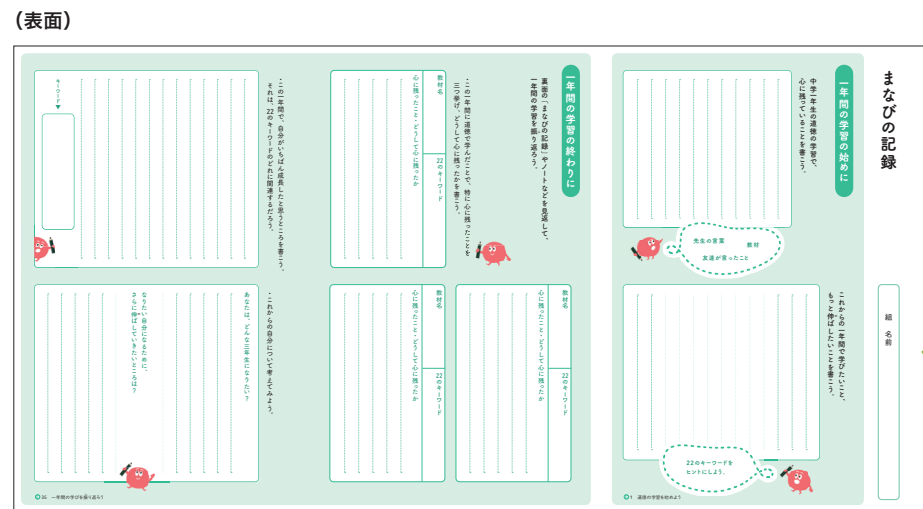
教材名と共にキーワード（内容項目）を示しているので、どのような道徳的価値について考えを深めるユニットなのかが一目でわかります。

道徳科の最終授業で、「まなびの記録」を活用して、1年間の振り返りを行えるようになっています。



裏面には、毎時間の授業の振り返りを記入する欄を設けました。

学年末の振り返りの際には、1年間の学びを、1枚で見渡すことができます。



2年 「まなびの記録」折込

巻末に、日々の学びを記録できる、「まなびの記録」を設けました。生徒の振り返りや、先生方の評価に活用することができます。

表面の、「一年間の学習の始めに」には、1年間で伸ばしていきたいことを、

「一年間の学習の終わりに」には、1年間の振り返りを書き込むことができます。

生徒が自覚をもって目標を立て、その目標に沿って振り返りができるように工夫しました。

自ら学びたくなる教材構成

「今日は何をテーマに話し合おうだろう」
生徒が自ら、何を学ぶのかを意識し、
主体的・対話的に学習に取り組める工夫を散りばめています。

主体的・対話的で深い学びを実現する「てびき」

考えよう(学びのテーマ)

教材を通して何を学ぶのかを意識できるよう、学びのテーマを明示しました。生徒の主体的な意見や、自由な発想を妨げることはないよう配慮しています。

発問

二つの問いで構成し、発問の意図を明確にしました。

- ①道徳的な問題を明らかにする問い(課題の設定)
- ②道徳的な価値についての理解や自覚を深める問い(中心となる発問)

さらに、最後にもう一度、「考えよう」に掲げた学びのテーマに戻って、本時のまとめとして活用することもできます。

発問の他にも、教材の内容に応じて、問いや呼びかけを提示しました。

見方を変えて

生徒が、多面的・多角的な見方や考え方ができるよう、上の発問とは切り口を変えた問いを設定しました。

つなげよう

他教科や日常生活との関連、他教材との関連、関連する図書の紹介等を、教材の内容に合わせて示しました。

他の学習との関わりを示しています(ここでは美術科との関わり)。SDGsと関連の深い教材には **SDGs** を付けています。

考えよう

伝統を受け継いでいくためには、
どんな考えが大切なのだろう。

- 『危機』なんて、少し大げさなんじゃない?』という言葉には、新のどんな考えが表れているだろう。
- 新は、レオナルドのどのような考え方に、「一本取られた」気持ちになったのだろう。

見方を変えて

- 「それは、新たちの役目でしょ。」という言葉には、レオナルドのどんな考えが表れているだろう。

つなげよう

- あなたが、次の世代まで残したいと考える日本の伝統文化は、何だろう。

美

178ページ「日本の郷土玩具」

139

「え? 日本の伝統文化を守ることじゃないの?」
「それは、新たちの役目でしょ。僕は、和菓子の技法や心をイタリアにもって帰れば、イタリアの食文化はもっと豊かになると思っているんだ。」
レオナルドの語る夢は、僕には遠いことのように思えて、よくわからなかった。でも、今回も、レオナルドに一本取られたような気がした。

と思っているんだ。僕の夢は、イタリアのお菓子に和菓子の技法や心を取り入れることだよ。」

QRコード

朗読音声や、教材の学習を深める資料をご用意しました。
(→本資料p.36 参照)

内容項目の表示

A～Dの四つの視点と、第1教材の「道徳で学ぶ22のキーワード」と連動した、本教材で学ぶ「キーワード」(内容項目)を示しています。



Aの視点

主として自分自身に関すること



Bの視点

主として人との関わりに関すること



Cの視点

主として集団や社会との関わりに関する
こと



Dの視点

主として生命や自然、崇高なものとの関
わりに関すること

「つなげよう」と連動して他の教材や付録などにつなげられる場合は、➡で教材名やページを示しています。